

形象埴輪

人物と盾・鞆と台座部分が出土しています。すべて墓前祭祀が行われたと思われる調査区Aの墳丘南裾部から出土しています。小片になって接合部がありませんが、人物埴輪は1個体と想定しています。腕部分は上腕部から湾曲しており、棒のようなものを握っているかと思われます。胴部分は袈裟状の衣文が見られます。盾は側面の鱗部分で斜めの刻線が残っています。鞆の飾板の可能性もあります。鞆は矢を入れるもので矢先端の鏃部分を明瞭に表現しています。台座は形象埴輪の基部と思われませんが、どんな形象埴輪かはわかりません。高さがそれほどないことから器材埴輪ではないと思われ、人物に復元してみました。

人物埴輪



円筒埴輪

1点だけ、全体がわかる円筒埴輪があります。口径28.4cm・底径14.6cm・高42.8cmを測ります。崩れた台形の低いタガを3段付けています。体部2段目と3段目に円形の透孔を設けています。ユビ成形のち、縦方向のハケ整形で仕上げられています。タガ断面が台形のしっかりしたものや底が小さくすぼまるもの、口縁が開くタイプなどもあります。倒立技法といわれる新しい技法によって作られています。



円筒埴輪

現在、相山古墳は地元西大貫区によって草刈りなどの保存整備や埴輪列の復元、古墳周辺の植樹などの活用がなされています。

ふくさき再発見シリーズ⑦

相山古墳

編集発行：福崎町教育委員会

〒679-2280 兵庫県神崎郡福崎町南田原 3116-1

TEL：0790-22-0560

E-Mail：syakai@town.fukusaki.lg.jp

相山古墳

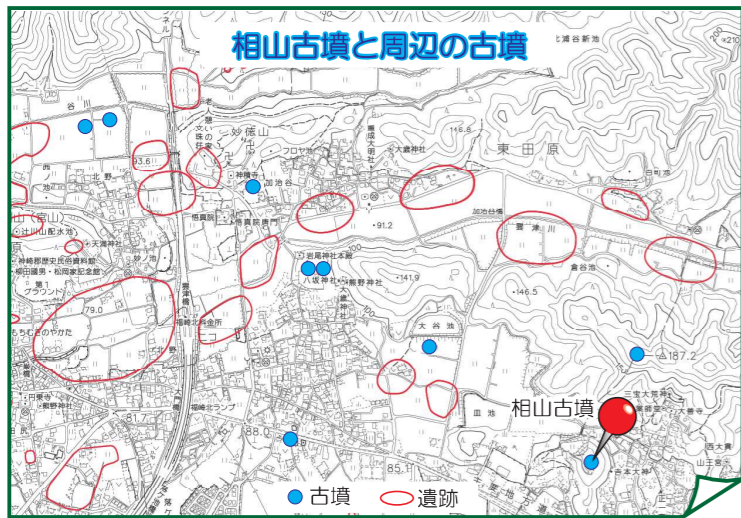


相山古墳は福崎町大貫字相山に所在する古墳で、独立丘陵の頂部に築かれた福崎町指定文化財です。

2002年に古墳公園整備に伴う発掘調査が行われています。径20mの円墳で、高さは北側で1.3m、南側で3mを測ります。尾根上にあることから、八千種方向（古墳の南側）から北を望むと実際の古墳の大きさより大きく墳丘が際立って見えます。福崎町で唯一埴輪を有する古墳です。鉄剣を出土した高橋古墳群が福崎町で最初に築かれた古墳と考えられ、それに続く古墳です。構築された立地や埴輪の存在から、最初の首長墳と考えられます。



福崎町全図



相山古墳は尾根頂部に築かれており、丘陵上に他の古墳が認められない単独墳です。北側の尾根には箱式石棺の大善寺古墳が存在し先行する古墳かもしれません。同様の箱式石棺は妙徳山遺跡にもあり、現在文殊荘の前に移築されています。それ以外の古墳は主体部が横穴式石室に変わり、相山古墳より後に構築されたと思われます。兵庫県指定の郡内最大規模の石室を有する妙徳山古墳、亀甲繫鳳凰文が銀象嵌された円頭大刀や装飾須恵器を出土した東広畑古墳、象嵌大刀を持つ東新田古墳、残存していないが終末期であろう石室の全長が福崎町最長的大门池ノ下古墳などが水田を隔てた西側に広がっています。



北東上空から



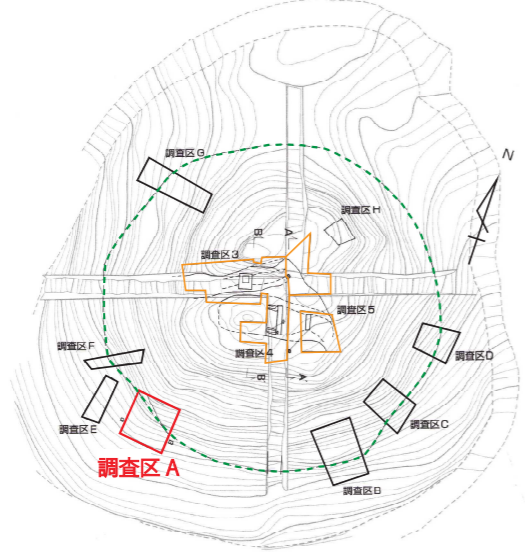
相山古墳復元想像図



古墳の規模を確認するため裾部分に7ヶ所の調査区を設定し、さらに古墳の墳丘の構築状況を確認するために十字にトレンチを設定しました。各調査区ともに溝状に掘りこんだり段上に平坦部を築いていることから、裾は明確で径20mと確認できました。東半の調査区では埴輪は出土せず、裾部に埴輪列は存在しないと思われます。



垂直写真



調査区設定図



西側トレンチ (点線が裾部)



南側トレンチ (点線が裾部)



墳頂調査区

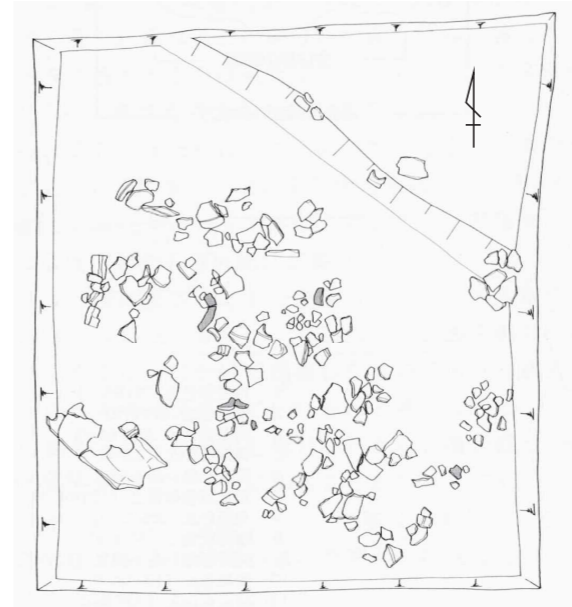


墳頂調査区では過去の攪乱坑があり、その下に主体部掘り方と思われる落ち込みを確認しています。東西方向の溝状落ち込みを2基調査しており、南側の溝には石材を伴っています。小口穴の可能性もありますが、規模が小さいことから疑問があります。須恵器片が出土しています。大形の石材は検出していないので石室ではなく、木棺か粘土槨ではと思われます。小石が多く出土し、礫敷きの可能性が考えられます。



墳丘南西裾部に設定した調査区Aから埴輪がまとまって出土しました。

円筒埴輪と形象埴輪と須恵器が出土しています。墳裾南側で出土していますが、埴輪基部の原位置は確認されていません。古墳裾部上でも埴輪は出土していますが墳丘から転がり落ちたものと考えられ、埴輪列などは認められません。埴輪は新しい技法によるもので、墓前祭祀が行われた可能性が考えられます。出土した甕・器台・甕(はそう)などの須恵器から6世紀中ごろのものと思われます。



調査区A 埴輪出土状態

調査区A 全体

